

## 新しいコミュニティのあり方に関する研究会（第4回）議事概要

1 開催日時 : 平成20年10月31日（金） 10:00～12:00

### 2 議事の概要 :

#### (1) 委員報告

- 「消防団の現状と課題」（小澤構成員）
- 「老人クラブによる地域活動—高齢者は地域の担い手」（永井構成員）
- 「地域福祉・地域ケアから地域の『適正規模』を考える」（森本構成員）

#### (2) 意見交換等

- 合併による地域活動の広域化
  - ・ 1つの消防団や社会福祉協議会が抱える管轄の範囲が非常に大きくなっており、小規模なネットワークの構築、あるいはその適正な規模でネットワークを構築していくことが難しくなっているのではないかと。
  - ・ 地域活動の圏域の設定というのは非常に重要な論点ではないかと。
  - ・ 圏域の設定には、人口密度やその地域の歴史的な特性なども影響してくるのではないかと。
- 消防団
  - ・ 自主防災組織が消防団と連携したときに大きな力を発揮している。
  - ・ 福祉と防災が消防団員を核として1つにつながっているような地域もある。
  - ・ 災害弱者等の情報が都会の場合非常につかみにくい。また、個人情報保護法制との関係で、集めた個人情報の取扱いについて難しい問題がある。
  - ・ 消防団等の地域コミュニティを構成する人々にサラリーマンが増加し、昼間は勤め先に出ているために、昼間に地域の課題（消防、防犯、防災等）に対応するときに困難が生じている事例がある。消防団のOBを活用できないかを検討している。
  - ・ 消防団でなかなか捕捉できないマンション等の集合住宅の居住者にどのように対応していくかが課題。
  - ・ 様々な人が参加しやすいような新しい訓練のあり方などが求められてきているのではないかと。
- 老人クラブ
  - ・ 老人クラブの友愛活動や声かけは必ずしも老人クラブというコミュニティのメンバーだけを

対象にしているものではなくて、会員でなくても必要があればカバーしており、そういう意味では活動に外部性がある。

- ・ 高齢者は単に支援を求めているような存在ではなくて、地域の担い手の1人としてさまざまな活動に取り組んでいこうという意欲を持っているので、こうした意欲をかき立てるのが老人クラブの仕事。
- ・ 一般的に高齢者の活動を考える場合には、歩いて行ける距離で物事が完結するということが非常に重要であることから、地域、地縁をベースとした活動が重要。

#### ○ 事業所と地域の協力関係

- ・ 基本的にはその地域、町が元気でなければ、そこにある事業所の繁栄もないので、事業所と地域が協力関係を持つべき。例えば、消防においても、大きな事業所は自衛消防隊を持っているので消防団との連携を期待できる。

#### ○ 地域コミュニティのあり方

- ・ 地域コミュニティ活動全般を通じて、「やらされた感」を持たれないようにすることが極めて重要であり、内発的な動機づけが大事ではないか。ある程度きちんとした任務は必要だが、ある一つの分野しかやらないというのではなくて、もっと緩やかなネットワークを通じて活動できればいいのではないか。
- ・ 人間には自分の存在の意味があるものだということを不断に確認したいという欲求があることから、居場所づくり等のコミュニティ活動が重要ではないか。
- ・ 地域福祉という言葉はコミュニティそのもの。福祉というと狭いイメージを持たれるかも知れないが、地域で安心して暮らせるような全体像として捉える必要がある。

#### ○ 都道府県・市町村の支援と組織

- ・ 消防団の活動費について、その地域によって様々な形態がある。会計報告などの面で非常にうまくやっているところもある一方で、団体によっては非常に苦労しているところもある。

#### ○ コミュニティと建築

- ・ 最近の建築の動向を見ると、機能で分化している建築の傾向が非常に顕著であるが、住宅と住宅以外の場所である中間的な空間というのがコミュニティのための場所と重なってくるのではないか。人が入っていきやすい空間のつくり方、デザインが必要なのではないか。